

### 第3章 文化的景観の整備活用に向けた課題

#### 3-1 文化的景観を構成する要素の価値と課題

黒島の文化的景観は、様々な課題を内包したものであり、高齢化や人口減少が続く黒島においてそのまま放置した場合、黒島の文化的景観の価値は急速に失われてしまう懸念がある。

黒島の文化的景観を構成する要素の価値とそれぞれの課題を保存計画書では以下のように整理している。

表：文化的景観を構成する要素の価値と課題

	自然地理的背景	独特な歴史的背景	生業空間と密接に結びついた集落
価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・亜熱帯植生の北限に近いという植生</li> <li>・外海の波浪を受けて断崖を形成する海岸線は、壮大な景観を形成している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仏教徒が住んでいた島に潜伏キリシタンが入植してきたという歴史</li> <li>・両者の住み分けが現在まで継続している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形に逆らわない営農</li> <li>・防風林に囲まれた畑や家屋</li> <li>・亜熱帯植生を利用した防風林</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活様態の変化による森林や里山の荒廃</li> <li>・開発行為に伴う景観のコントロール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史、民俗など継続的な調査研究</li> <li>・人口の減少、高齢化による集落の荒廃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過疎化等に伴う担い手の減少</li> <li>・観光資源としての認識と保全</li> <li>・人口の減少、高齢化による集落の荒廃</li> <li>・開発行為に伴う景観のコントロール</li> </ul>

次頁に、明治時代（図面①：明治10年（1877）頃の字図をもとにした土地利用の想定）と、平成21年（2009）（図面②：現地調査及び航空写真をもとにした土地利用現況）を示す。

明治時代から平成に至る黒島における土地利用の顕著な変化は、以下に示すとおりである。

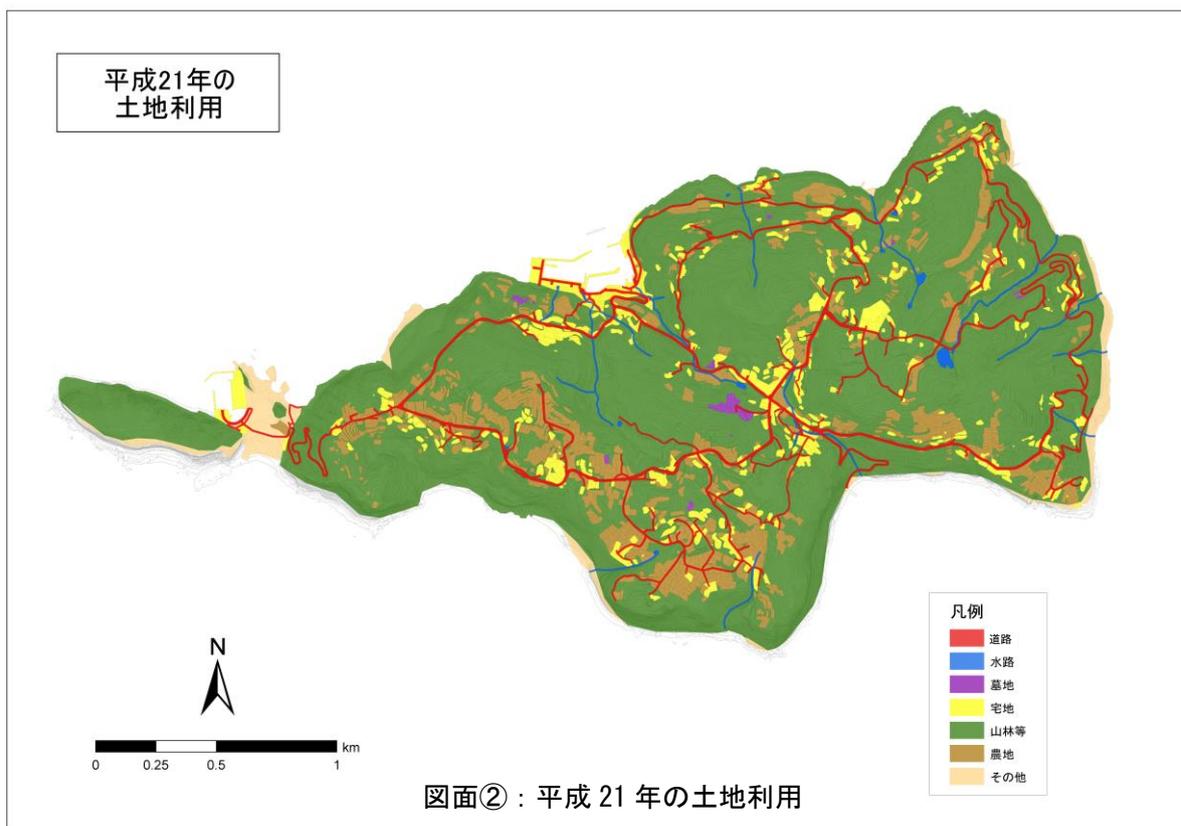
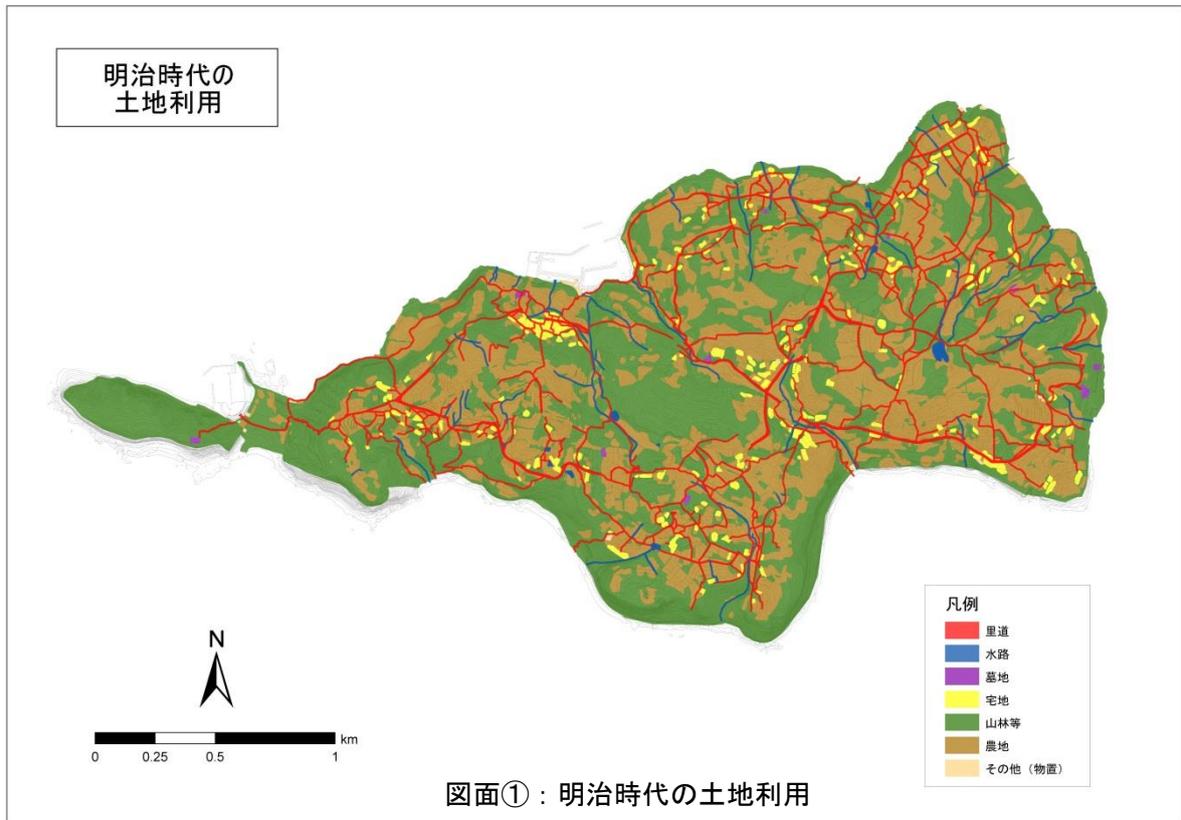
農地の減少：明治時代には島内に農地が広がっていたが、平成の土地利用現況では宅地の周辺や道路沿いの谷地などに残るのみとなり、大幅に農地が減少した。（平成の土地利用現況では、耕作放棄地等は山林等に分類）

里道の消滅：明治時代には、集落から農地や集落相互を結ぶ里道が多数存在していたが、自動車交通の発達等に伴い、それらの多くが消滅した。

共同墓地の建設：黒島天主堂の北西約350m、黒島の位置的中心にあたる名切地区の丘陵北斜面に、大規模なカトリックの共同墓地（小田平墓地）が設けられた。

漁港整備：女瀬（蕨）の串ヶ浜地区及び本村の白馬地区に漁港が整備され、土地利用が変化した。（山林等から宅地・その他〈海岸・埋立地等〉へ変化）

以上のように、人口減少等に伴い、農地の減少（耕作放棄地の増加）と農作業等に利用されていた里道の消滅が進行した経緯が伺える。



### 3-2 黒島部会での取り組み

保存計画書の策定以降、黒島において開催された「佐世保市文化的景観保存推進委員会 黒島部会」（以下「黒島部会」という。）等においては、文化的景観の保存や整備活用に向けて、以下に示すような事項が指摘されている。

#### 1) 島を元気にするための取り組み

- ・人口減少、高齢化などにより、昔から行ってきた島内の様々な活動（清掃・まつり・レクリエーション・防犯・福祉）を続けていくことが難しくなっている。
- ・島から出ていった人たちが帰ってこられるような環境づくりとして、利益が見込める農産物に取り組むことが重要だ。
- ・島の生活や風景を維持していくためには、外部からの支援（資金的支援・人的支援）が必要だ。
- ・島の活性化に向けて、若い人たちも参加した組織づくりが必要だ。
- ・黒島から外に向けた積極的な情報発信が必要だ。

#### 2) 黒島の景観の活用

##### ① 展望所の整備

- ・晴れた日に平戸が手に取るように近くに見える「島寄せ」の風景は素晴らしい。
- ・黒島の美しい景色を案内できるような展望所の整備が必要だ。

##### ② 「道」の整備

- ・道幅が狭く、木が生い茂って、離合や消防車の通行が困難な箇所がある。
- ・昔使っていた畑や浜に通じる近道（里道など）が、草木が繁茂して通れなくなっている。
- ・このような里道は「水みち」となっているようなところがあり、再整備が必要だ。
- ・里道などを活用して、森林浴が味わえるような散策道を整備したい。
- ・本村から女瀬に通じる里道は、最短距離で女瀬に行ける道である。新しく整備された道路もあるが、遠回りで徒歩では利用しにくい。
- ・黒島にはこのような里道が他にもあり、今は雑草木が繁茂して利用しなくなったが、里道の再整備は黒島にとって重要なポイントだ。
- ・世界遺産登録後に、大勢の観光客が島に入ってくることを想定すると、観光客が島民の日常生活の空間に不用意に入らないような観光ルートの設定が必要だ。

##### ③ 花木の活用

- ・根谷地区で行っているような花を育てる取り組みを全島に広げていきたい。
- ・例えば「港から教会までの道を花で飾る」、「ネムノキ通り」、「ツバキとサザンカ」など、黒島ならではの特徴を活かした取り組みができればおもしろい。
- ・港から本村を通過して女瀬に行く道はパールラインと呼ぶ人もおり、眺望が素晴らしい。根谷地区で花を飾る取り組みが行われているが、この道も花を飾ることができたらよいと思う。

#### 3) 空き家対策

- ・「いずれ島に帰ってくる」といって長期間空き家のままになっているものが多い。
- ・空き家を活用した体験旅行や島外の人たちへの貸し出しなどの取り組みを検討していきたい。
- ・空き家を貸したくないという人もおり、上水道が無いところもあり、空き家の活用には課題が多い。
- ・空き家の現状（どこに空き家があるのか、持ち主は誰かなど）を管理したり、空き家を活用する

取り組みが必要だ。

- ・このような取り組みは、「町内会」と「行政」が役割分担をしながら協力して進めるべきだ。

#### 4) 防風林・屋敷林

- ・所有者の高齢化により、防風林・屋敷林の手入れを続けていくことが難しくなっている。
- ・木が成長しすぎて、防風林として機能していなかったり、かえって危険なところもある。
- ・黒島の景観として防風林や屋敷林を大切に守る必要はあるが、守るためのルールを作るだけでなく、守るための仕組みが必要だ。
- ・学生さんや観光客に防風林の手入れを手伝ってもらえるような仕組みができれば、島外との交流も生まれて良い方向になる。

#### 5) マルマン神父の遺品や墓地について

- ・マルマン神父様（黒島にお墓がある）の活動について、もっと多くの人に知ってもらい取り組みが必要だ。
- ・黒島天主堂前の信徒会館の居室を利用して、マルマン神父に関する資料を観光客向けに展示したらどうかという意見がある。
- ・マルマン神父の墓を移動しようという意見もあるが、昔からの里道（赤道）を再整備すれば今の位置でも多くの人が訪れやすくなると思う。
- ・この里道は、昔は棺を四人で担いで歩けるほどの幅があったので、再整備すれば活用できる。

#### 6) 黒島小学校跡地利用について

- ・漁協が港の方で1次加工を行っているが、小学校跡地で2次加工を行う場所として活用できないかという意見がある。
- ・駐車場の問題が解決できるので、支所の移転先として活用したいという意見がある。その他にも歴史資料館、会議室、ビジターセンター（世界遺産登録後）などとしての活用のアイデアもある。

#### 7) 地元組織の立ち上げについて

- ・観光客等の交通手段を提供することを目的としたNPOを設立するための協議を進めている。
- ・交通手段のみでなく、例えば空き家の管理など、他の分野にも取り組んでいきたいという思いがある。
- ・設立のための資金や、若い人たちが参加してくれないのが課題だ。

#### 8) その他

- ・教会前の空き地の活用を図りたい。（お花畑、休憩所）
- ・島にはイノシシが多いので、イノシシを活用した取り組みができないだろうか。（加工・販売）
- ・世界遺産を目指すのであれば、もっと意識啓発が必要だ。港にはゴミが多く、みんなが世界遺産を、という意識を持つことが必要だ。

### 3-3 文化的景観の整備活用に向けた課題

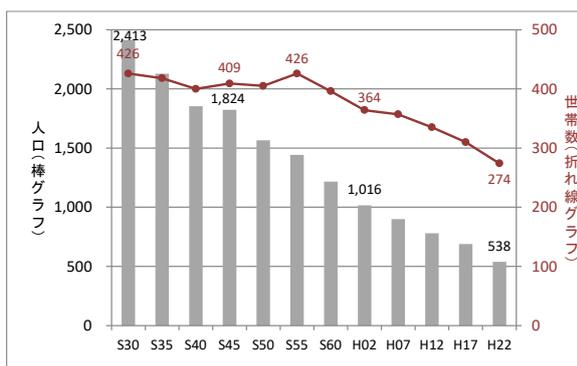
以上のような文化的景観に係る課題、黒島部会での指摘事項を踏まえると、文化的景観の整備活用に向けた課題は、まず、文化的景観そのものの保全、文化的景観の価値を顕在化するための環境整備、文化的景観を活かした取り組み、そして文化的景観の価値を広く情報発信することが要素的な課題と考えられる。

#### (1) 景観の保全の必要性

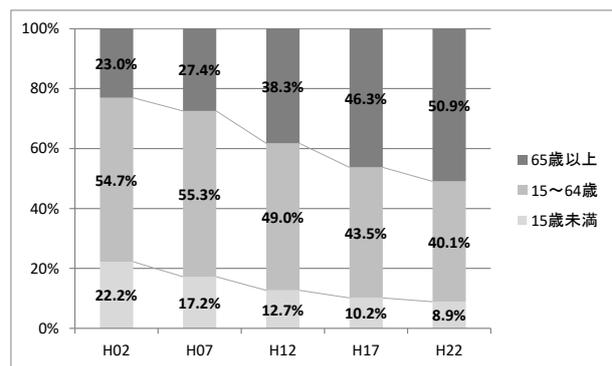
黒島では、急速に人口減少、高齢化が進展しており、後継者不足による農地の減少、防風林・屋敷林の維持管理の担い手不足、空き家の増加、従来から行われてきたコミュニティ活動（まつり、環境美化など）の継続が困難になるなど、住民の生活・生業と密接に結びついた文化的景観が失われることが懸念される。

一方、世界遺産登録を視野に入れると、今後黒島への観光圧力が高まることも予想される。

以上のような状況を踏まえると、生活・生業空間の維持・保全に向けた地域への支援策や、住民の生活や美しい景観を守りながら観光等の圧力に適切に対応するための方策（景観コントロールなど）が必要となっている。



人口・世帯数の推移 (国勢調査)



年齢三区分別人口構成比の推移 (国勢調査)



二次林内を通る荒れた里道



耕作放棄地が目立つ番岳の斜面

## (2) 黒島の魅力や価値を顕在化するための環境整備の必要性

「生業空間と密接に結びついた集落」は、文化的景観を構成する要素であり、景観保全のためのコントロールの方策と併せて、良好な集落景観を維持・向上させるために景観へ十分に配慮した整備が必要である。

さらに、地域に埋もれている石造物・戦跡や、美しい眺望景観など、黒島の文化的景観の価値を高め、顕在化させるための環境整備が必要である。



マキの防風林に囲まれた住宅  
(蕨集落)



旧名切砲台跡



長崎鼻への眺望

## (3) 黒島の魅力や価値を活かす取り組みの必要性

黒島天主堂が構成資産候補となっている「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録の動きや、交流人口の増加による地域の活性化などを考慮すると、観光イベント、特産品の開発など、黒島の魅力や価値を観光資源として活用した取り組みを進めていくことが必要である。



黒島天主堂コンサート



「黒島めぐる」ツアー  
(西海パールシーリゾート)



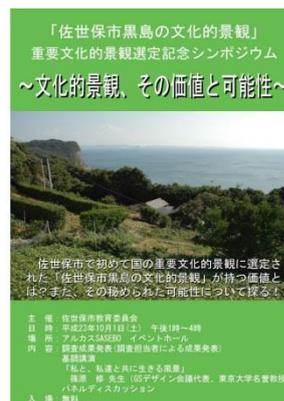
サツマサンキライの葉を使った  
「ふくれ饅頭」

## (4) 黒島の魅力や価値を積極的に発信する必要性

黒島の文化的景観の魅力や価値についての調査研究を継続的に進めるとともに、地域住民や来訪者に広く啓発・アピールするための積極的な情報発信、仕組みづくり、環境整備などの取り組みを進めていくことが必要である。



史跡保存会によるガイド活動



重要文化的景観選定記念  
シンポジウム  
(平成23年10月開催)